

臨床心理専門家養成のための医療実習に関する実態調査

ー全国臨床心理士指定校におけるシラバスよりー

松井三枝

1. はじめに

心理学の応用のひとつとして、医療領域に関わる専門家の育成のための教育システムは重要と考えられる。医療の分野における心理職のニーズは昨今ますます大きくなってきているといえるが、そのためのコアとなる教育が実際には各大学でどこまでなされているかが必ずしも明らかとはいえない。広義の臨床心理学のなかに医療領域に従事する心理学専門家の育成が入ってくると思われる。2008年に日本学術会議の健康・医療と心理学分科会は、医療領域に従事する国家資格法制の確立の提言を行ない、これ以降の討論の中で、現状の問題として、教育カリキュラムの確立が課題とされた。とくに、大きな点は臨床実習を含めたカリキュラムの確立にあるといえる。

本研究では、そのために全国の臨床心理系大学での教育システム、とくに臨床実習状況の実態調査を行ない、大学院における専門家教育のためのカリキュラムの充実に向けての資料を提供したいと考える。

実際には第1段階として現在ある全国の臨床心理士指定校や専門職大学院165校を対象の中心として調査を行なうこととする。第2に全国の臨床心理士に教育経験等についてアンケート調査を行なうことにする。第3に全国の大学病院に臨床心理専門家の医療実習受け入れ状況についてのアンケート調査をする。本報告では、このうちの第1段階のなかのシラバス調査について示すこととした。

2. 方法

平成22年7月現在における日本全国の臨床心理士指定校165校（内訳は表1）を対象とした。対象校の全ての臨床心理士大学院において、WEB上でシラバスが公開されていることを確認した。そこで、WEB上で掲載されているシラバスに基づいて、医療実習の有無と、それが有であればその内容、時間数、単位数、実習先の診療科、実習に際してのスーパーバイザー・臨床指導者、科目名、評価法、実習内容について調査した。

表 1 臨床心理士指定大学院(H22.7.1 現在)

	国立	公立	私立・他	合計
第 1 種	31	3	110	144
第 2 種	9	2	5	16
専門職大学院	2	0	3	5
計	42	5	118	165

3. 結果

165 校の臨床心理士指定校のうち、医療実習「あり」としている大学院は 80 校、「なし」は 22 校で、63 校は不明であった。表 2 に医療実習大学院における医療実習先の延べ施設数を示した。また、表 3 に医療実習先の延べ診療科数を示した。

表 2 医療実習先施設

	大学付属病院	単科病院	総合病院	クリニック	不明
実習先施設(延べ数)	8	21	8	15	48

表 3 医療実習先診療科

	精神科	心療内科	小児科	その他	不明
実習先診療科(延べ数)	46	5	4	老人科 1 子どものこころ 心療部 1	34

表 4 に実習内容の内訳を示したが、シラバス上では不明が多かった。表 5 に医療実習が含まれている科目名を示した。多くの大学院では「臨床心理実習」という科目名の中に入れられていた。専門職大学院では「臨床心理地域援助実習」という科目に含まれている場合があった。なお、時間数は不明も多いが、大学によりまちまちであり、1 コマのみ、5 コマ程度といった大学もあれば通年で週 1 回と記載されている大学もあった。

表 4 実習内容(延べ数)

アセスメント	20
面接	12
心理療法	6
グループアプローチ	16
不明	39

表 5 実習科目名(延べ数)

臨床心理基礎実習	5
臨床心理実習	66
臨床心理応用実習	2
臨床心理地域援助実習	3
その他	病院実習、病院臨床実習、臨床心理外実習、精神医学実習、 学外実習、特別実習、精神科施設専門実習、各 1

表 6 に評価法の要約を示した。表 7 に誰が医療実習のスーパーバイズや指導を行なっているかの要約を示した。

表 6 評価法(延べ数)

参加状況(出席等)	33
実習状況(理解度、態度)	41
レポート	32
実習記録、日誌	8
発表	10
その他	課題、試験、口頭試問、紀要執筆、各 1
不明	21

表 7 スーパーバイズ・指導者(延べ数)

医師	3
臨床心理士	14
実習先の指導者	5
担当教員	3
その他	1
なし	2
不明	56

4. 考察

本結果、全国にある 165 の臨床心理士指定校のうち、何らかの形で医療実習を多少なりとも取り入

れている大学院は 80 校と半数に満たなかった。この理由の予測としては、我が国の現状ではほとんどの臨床心理系の大学院は教育学部や文学部系列内にあり、スクールカウンセラー養成のための実習のような教育臨床にかかわることはある程度なされていると思われる。他方、医療領域での実習を系統立てて行なうためには、様々な理由で各大学院での努力を要することであると推測される。実習先をみると、大学附属病院は 8 校と非常に少ない。本来的には、大学附属病院は医療従事者の教育機関として最適と考えられるが、心理職に関する教育のための連携はまだ全国的に認識されていないことが推測される。諸外国の教育システムと比較すると、我が国の臨床心理教育における医療実習の不足が予測される場所である。他方、医療現場からは臨床心理の必要性はこれまでも十分認識されていることであり、そのための教育充実が必須のことと思われる。医療実習先として、予測されたように精神科は比較的多い。しかしながらこの点に関しても、諸外国の状況や昨今の医療現場のニーズからいうと、心理学が比較的直結しやすい精神科のみならず、心療内科、神経内科、脳神経外科、小児科、リハビリテーション領域などの実習体験も構成されてゆくと好ましいであろう。

全国の実態調査により、各臨床心理系大学院の教育システムの中で臨床実習がどこまで、どのように、どこで取り組んでいるのかを明らかにすることが目的であった。本調査結果は、あくまで公開されているシラバスのみによる調査であったので、不明点が多く、実際の詳細なところまでは分かりにくかったという印象が強い。さらに全国の大学病院に我々が行なった実際のアンケート調査では、より具体的で有用な情報が得られており、今後報告したい。

謝辞

本報告は平成 22 年度学長裁量経費により実施された調査の一部である。本研究の手伝いをしていただいた長崎真梨恵さんおよび福田晋平君に深謝いたします。

松井三枝

富山大学大学院医学薬学研究部（医学）心理学教室